

「信州学び円卓会議」から 県民に向けたメッセージについて

令和6年10月21日（月）

長野県県民文化部県民の学び支援課

目 的

変化が激しく先行き不透明な時代にあって、これからの子どもたちにとっての学びの選択肢の充実や個別最適な学びを実現するために何が必要かを幅広く検討し、関係する様々な主体における取組や県民全体の機運醸成につなげることを目的とする。

開催実績

回	月日	議論のまとめ
第1回	R5.9.1	教育に関するこれまでの当たり前を変えていく、教育システムのあり方を問い直していく
第2回	R6.2.1	教育に関する制度や現在の取組を共に学びながら方策の検討を進める、地域の抱える課題に取り組む
第3回	R6.5.20	これまでの意見を円卓会議の案として示し、県民の皆様の理解を得ていくプロセスに移行していく
第4回	R6.7.4	メッセージ発信や関係団体との意見交換を通じて、関係する様々な主体における取組につなげていく

これまでの議論を踏まえたありたい姿

ありたい姿	主な現状と課題	ありたい姿	主な現状と課題
子どもたちが学校等でやりたいことを実現できている	- 子どもたちが主体的・対話的に学ぶことができる環境が整備されていない - 子どもたちが先生と向き合う時間が不足している	小規模校ならではの特色ある学びが実現できている	人口減少社会における学びの場の確保や質の維持・向上のあり方の検討が急務となっている
教員が学校等でチャレンジしたいことを実現できている	- 事務量の多さと多忙感により時間的・精神的な余裕がなく、余白がない - 外部人材の活用が進んでいない	「こどもまんなか社会」の実現に向けて様々な機関が連携・協働している	- 学校と学校外の関係者の対話の場・機会が不足している - 多様な学びに関する情報にアクセスできる環境が整備されていない
多様性の時代に即した入試制度になっている	自分の興味・関心を深める学びや自分の強みを伸ばしていく学びと、入試制度の整合性がとれていない	多様な学びの場を信州全体で支えている	- 子どもが抱える困難の多様化・複雑化に対する理解が進んでいない - 学校だけに責任を追及しない社会の寛容さが醸成されていない

※信州学び円卓会議の詳細は、下記URLまたは右記二次元バーコードからご覧いただけます。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/ken-manabi/manabi/entaku.html>



目 的

県民一人ひとりが子どもたちにとって最適な学びのあり方について自分事として考える機運の醸成を図るため、また、円卓会議での議論に資するため、県内各地の多様なフィールドにおける学びの当事者との意見交換を実施。

開催実績

回	日時・フィールド	テーマ	対象	意見概要
1	R5.9.23 (根羽村)	次世代に続く 中山間地域で の学びづくり とは	根羽村、その 他中山間地域 での学びに関 心・関わり のある方	・ <u>学校を地域に開き</u>、大人も学校で児童生徒と共に学ぶ環境が作れないか ・ 根羽村では小規模校の特性を活かして<u>学年を超えた、自由度の高い学び</u>を行うことができるのではないか ・ 中山間地域において、先生たちがやりたいことをできるようになるためには、<u>適正な教員配置</u>などの課題がある
2	R5.10.18 (フリースクール)	子どもの居場所と学びの継続について	居場所・フリースクール関係者、児童・生徒、保護者、教員等	・ 学校、フリースクール関係者、保護者、行政がもう一步踏みこんで話せる場があるとよい ・ より多くの保護者や生徒に対して、「<u>学校に行けなくても大丈夫</u>」という<u>価値観を広げ、色々な選択肢があることを知ってもらうことが必要</u> ・ <u>学校以外の学びの場、支援機関の認知度が低く、情報発信が必要</u>
3	R5.10.25 (松本県ヶ丘高校)	中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方	中学生、高校生、保護者、教員等	・ 教員も生徒も自由度が少なく、主体的に取り組めることが限られている ・ <u>学校は自分の「好き」を突き詰められる場所</u>であり、それぞれの夢や将来に合った授業を取り入れてほしい ・ 生徒と教員がじっくり話せる環境が重要
4	R5.11.14 (信濃教育会館)	教員の理想とする、これからの長野県での学びとは	教員、その他の教育関係者等	・ 子ども達が興味関心を持ち自発的に学ぶことを実現するには、<u>教材研究をする時間の不足、保護者への対応に追われる、教員の人数不足、へき地の学校への教員配置等の課題</u>がある ・ 子ども達が学びたいことに対して教師が伴走して支えることが理想ではあるが、<u>受験等保護者の関心と両立できるか疑問</u> ・ 教師や子どもたちが失敗を恐れずに様々なことに<u>チャレンジできる機運の醸成が必要</u>

回	日時・フィールド	テーマ	対象	意見概要
5	R5.12.6 (軽井沢風越学園)	私たちが考える理想の「学びの環境」とは	軽井沢風越学園の生徒、教員、保護者等	・ <u>生徒が自分で学びたいことを見つけ、異学年で共に学びながら思ったことを発言し、互いに肯定し合う環境が重要</u> ・ <u>地域の大人と関わり、大人と子どもという枠に縛られずに互いに学ぶことができる</u>とよい ・ <u>学びの場を学校に限定する必要はなく、一人ひとりの得意分野が評価される仕組み</u>があるとよい
6	R6.1.17 (信州大学教育学部)	教員の魅力と私たちが考える教育の未来	大学生、大学院生、教員、その他の教育関係者等	・ 「教員になりたい」と言うとは色々な人に大変だよと止められる。<u>学校現場の大変さを伝えすぎると教職離れがすすむのでは</u> ・ 初任者であることの不安。やりたいことはあるがどうしたら初任者の壁を越えられるか ・ 時間割のシステムが当たり前になっているが、<u>子どもたちが授業を選んで学べるとよい</u>
7	R6.3.7 (特別支援学校)	すべての子どもを包み込む学びの環境とは	特別支援学校生徒、保護者、教員その他の教育関係者	・ <u>大人の視点だけで子どもの学びの環境を決めるのではなく、子どもの視点も取り入れて一緒に考えることが重要</u> ・ <u>子ども自身が学びの環境や自分の居場所を「選択できる」こと</u>、そのために地域や社会が受け入れる体制を整え、選択肢を増やすことが重要 ・ 選択肢を増やすためには、情報提供体制や学校の人的・設備的サポートの充実が必要
8	R6.5.13 (インターナショナルスクール)	「私の学び」を実現するためにできること	高校生、保護者、教員等	・ 学校の中だけで学びを完結させず、<u>地域や異年齢、異文化の人とのコミュニケーションが「広がり」や「深み」のある学びに繋がる</u> ・ 私立学校と公立学校がお互いの長所を伸ばしあい、短所を補完していくことで、<u>地域全体として子どもの学びを高めていける</u> ・ <u>子どもが興味を持って学んだことを、どう学習指導要領の内容に繋がれるのかを教員が考えること、それを教員が心にゆとりをもって考えられる環境が重要</u>

(R6.4.1現在)

職 名	氏 名
信州大学教職支援センター准教授 (信州学び円卓会議座長)	荒井 英治郎
軽井沢風越学園校長	岩瀬 直樹
松本大学教育学部教職支援室専門員 (前長野県飯田養護学校校長)	浦野 憲一郎
根羽村長	大久保 憲一
(公社) 信濃教育会会長	大日方 貞一
(学) 白馬インターナショナルスクール 理事長	草本 朋子
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤 守
NPO法人Hug代表	篠田 阿依

職 名	氏 名
山ノ内町教育長	竹内 延彦
上田市立第五中学校校長	畠山 正幸
須坂市長	三木 正夫
松本市立波田小学校校長	三輪 千子
信州大学教育学部学部長	村松 浩幸
長野県野沢北高等学校校長	柳沢 敬
長野県知事 (オブザーバー)	阿部 守一
長野県教育長 (オブザーバー)	武田 育夫

2024年7月30日（火）

信州学び円卓会議からのメッセージ

他者と協働しながら社会の課題と向き合う

新しい社会の創り手を育むために

学びの 「新しい当たり前」 を共に創る

信州学び円卓会議は、次の「取り組むべき方向性」と「重点取組項目」を提案します。

ま

学びの主人公を「子ども」に

な

長野県の学校・先生の
チャレンジを支える

び

ビジョンをもとに
つながり、広げる

- 1 子どもたちが学校等でやりたいことを支える
- 2 教員が学校等でチャレンジしたいことを支える
- 3 一人ひとりの学びや得意を共に認め合う仕組みを検討する
- 4 長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる
- 5 「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める
- 6 多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する

学び・教育改革に臨む私たちの決意 ～日本の学びの「新しい当たり前」を信州から創る～

長野県知事 阿部 守一
長野県教育委員会教育長 武田 育夫

今まさに、時代の大きな転換点であり、日本全体、学び・教育のあり方が問われています。

子どもたち一人ひとりが自身の能力や個性を最大限伸ばし、子どもらしく生きる、その上で自分の頭で考え、目の前の課題を解決していく社会変革の当事者となっていける学びや教育を、この長野県から実現していきたい、またそれができる長野県であると信じています。

そのためには知事と教育長がしっかりと連携することはもちろんですが、義務教育は市町村や市町村教育委員会の皆さんと、また学校は学校現場の先生達、それを支える地域の皆さん、保護者の皆さん、さらには多様な学びの場を支える皆さん、など教育に携わる多くの関係者と目指すべき方向性をしっかりと共有することが重要であると考えます。

教育は「今」を積み重ねた先にある「未来」を創造する営みであり、未来とは希望です。

「信州学び円卓会議」からのメッセージを受け、私たちは未来の子どもたちのために、長野県から学びに関する「これまでの当たり前」をもう一度問い直し、子どもたちが主人公の「新しい当たり前」を創っていきます。

1 長野県の学び・教育をこのように改革していきます

- ①子どもたちが学校等でやりたいことを支える
- ②教員が学校等でチャレンジしたいことを支える
- ③一人ひとりの学びや得意を共に認め合う仕組みを検討する
- ④長野県の中山間地域の強みを活かした特色ある学びを広げる
- ⑤「こどもまんなか社会」の実現に向けた様々な機関の連携・協働を進める
- ⑥多様な学びの場を信州全体で支えるネットワークを再構築する

2 このような「力」をそなえた人を育成していきます

- ①他者と協力してよりよく生き、自分と他者を幸福にする「力」
- ②物事の本質を捉え自ら主体的に判断する地球市民として生きる「力」
- ③自らの人生を切り拓くための豊かな体験と基礎的な学「力」

3 このように改革を推進していきます

- ・市町村、市町村教育委員会、学校長、教員、PTAなど、子どもの学びに関わる教育関係者と改革の方向性を共有する。
- ・それぞれの立場で「新しい当たり前」は何か、その実現に向けてどのような取組ができるか検討いただき、共に改革を推進していく。

教育関係団体との意見交換について

信州学び円卓会議が発出したメッセージの内容を踏まえ、様々な主体による「学びの『新しい当たり前』を共に創る」取組に繋げていくため、県内教育関係団体との意見交換を実施した。

実施団体

8/19（月）	信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会	9/6（金）	長野県教職員組合連絡協議会
8/22（木）	公益社団法人信濃教育会	9/6（金）	長野県町村会
8/22（木）	長野県市長会	9/10（火）	長野県特別支援学校校長会
8/23（金）	長野県小学校長会・長野県中学校長会	9/18（水）	一般社団法人長野県私立幼稚園・認定こども園協会
8/24（土）	長野県野外保育連盟	9/25（水）	長野県PTA連合会
8/28（水）	長野県市町村教育委員会連絡協議会	10/3（木）	長野県私立中学高等学校協会
9/2（月）, 9/3（火）, 10/10（木）	長野県高等学校長会	10/10（木）	一般社団法人長野県保育連盟



意見交換会の結果概要

(出された意見の中から、主な意見を抜粋し要約)

<メッセージを受けての所感>

・メッセージに込められた思い、方向性については概ね共感できる

- ・メッセージの内容は今後が楽しみになってくるという印象。(長野県特別支援学校校長会)
- ・メッセージの方向性は、これからのグローバル化、少子高齢化、ICT化社会の中で必要なこと(長野県私立中学高等学校協会)

・具体的に何をするのか、学びの「新しい当たり前」とは何なのか、イメージしづらい

- ・先生方で「新しい当たり前」のイメージが沸いている方もいるが、そうではない方もいる(信濃教育会)
- ・具体的なイメージができないということが率直な感想。(長野県市町村教育委員会連絡協議会)

・このメッセージを学校の教職員の皆様や県民により広く発信していくべき

- ・現代の教育課題に沿ったメッセージであり、現場の者としてはありがたく感じる。県民や教職員に広く伝えていただきたい。(長野県小学校長会・長野県中学校長会)
- ・このメッセージは全ての教育者にしっかり届いて、読んでいただきたい。(長野県保育連盟)

＜メッセージを踏まえた取組の充実に向けて重要なこと＞

・教育条件の整備

- ・メッセージの内容が実現できると良い。そのために予算増額や人的配置の充実が不可欠と感じる。
（長野県高等学校長会）
- ・1学級の子どもの人数や1日の授業の時間数を見直すなど、構造的な改革に踏み込む必要がある。
（長野県市町村教育委員会連絡協議会）

・様々な関係者が連携して子どもの学びを支えること

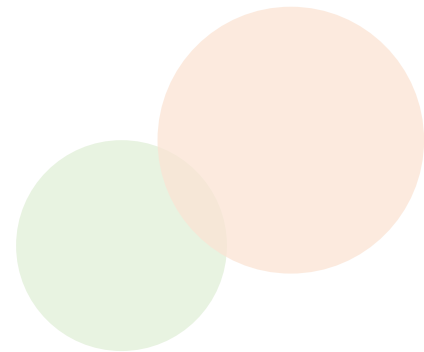
- ・学校での学びを校内のみで閉じずに、他校の子ども、地域の方と学び合う場があることが重要。
（長野県特別支援学校校長会）
- ・子どもの学びの育ちの保障として幼保小連携は大切。（長野県野外保育連盟）

・子どもの声や当事者の声に耳を傾け、思いを尊重すること

- ・他の人とは異なった意見でもいいから、子供の意見を聞いてもらいたい。
（長野県私立幼稚園協会・認定こども園協会）
- ・自分からは言えない子どもの声をしっかり聞き取る、子どもアドボカシー（権利や主張を代弁する）のような取り組みが必要。（信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会）

・これまで培ってきた信州教育の魅力をさらに引き出す学び

- ・先生方のこれまでの知見や経験の上に積み上げることが大事。（信濃教育会）
- ・これまで信州教育が大切にしてきたことの中に、新しい当たり前を創り出すヒントは存在しているのではないか。
（長野県小学校長会・長野県中学校長会）



教員向けアンケート 集計結果

要約版

令和6年10月16日（水）

信州学び円卓会議運営委員会

長野県教育委員会事務局

目 的

教員のチャレンジや働き方改革等の促進に向けた具体的な方策の検討に当たり、教員の声を反映するとともに、教員・学校現場の実情を県民に対して示すことで、県全体で教員を支えていこうという機運醸成を図る

調査対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校に勤務する管理職及び授業をお持ちの教員
調査方法	一般的な標本調査※¹で用いられる手法の一つである、層別抽出※²に準じて実施 (校種別の教員数や地域等、母集団（長野県内の教員）の特性を考慮) ※¹ ある集団の中から一部の調査対象を選び出して調べ、その情報を基に、元の集団全体の状態を推計するもの ※² 母集団を複数の層（グループ）に分け、各層から必要な数の調査対象を無作為に抽出する方法
調査項目	・「教員用」、「管理職用」に分けて調査票を作成 ・働き方や教員研修の現状、仕事の満足度等について、TALIS（OECD国際教員指導環境調査）を参考に調査
調査期間	7月上旬から概ね1か月間
配布・回答数	配布数：2,028人 回答数：1,054人（教員：776人、管理職：278人） ※回答率：52.0%
留意事項	・本アンケートは、学校名や個人名を記入する項目はなく個人が特定されることはない ・回答は強制ではなく、協力いただける方に任意で回答をいただいたもの

共通項：教員

- 全体として仕事への満足感は感じており、また、現在の学校の仕事での楽しさも感じているが、教職が社会的に評価されているとは感じておらず、給与・福利厚生・諸手当に満足していない
- 業務でストレスを感じているのは、事務業務が多すぎること及び保護者の懸念に対応すること
- 予算が増加した場合に優先すべき事項として「教職員の増員による学級規模の縮小」を重視している
- それぞれの学校種に応じた内容の研修の必要性は高く感じているが、参加に当たっての障壁としてスケジュールが合わないことを共通して挙げている

共通項：管理職

- 質の高い指導の実現を妨げることとして「教員の時間的・精神的余白や余裕の不足」を挙げている
- 業務でストレスを感じているのは、事務業務が多すぎること及び保護者の懸念に対応することに加え、国や地方自治体からの要求の変化に対応することも上位に挙げられる
- 国や地方自治体からの人的・物的資源及び地理的条件等に関する給与手当の支援を望んでいる
- 第4次教育振興基本計画の推進に当たって「教員のウェルビーイング向上のための働き方改革」を最も重要視している

特徴：特別支援学校

- 物理的な施設設備の充実や修繕の支援を重視
- T・Tや学級・学年をまたぐ実践が多い
- 福祉機関等との連携の推進を重視

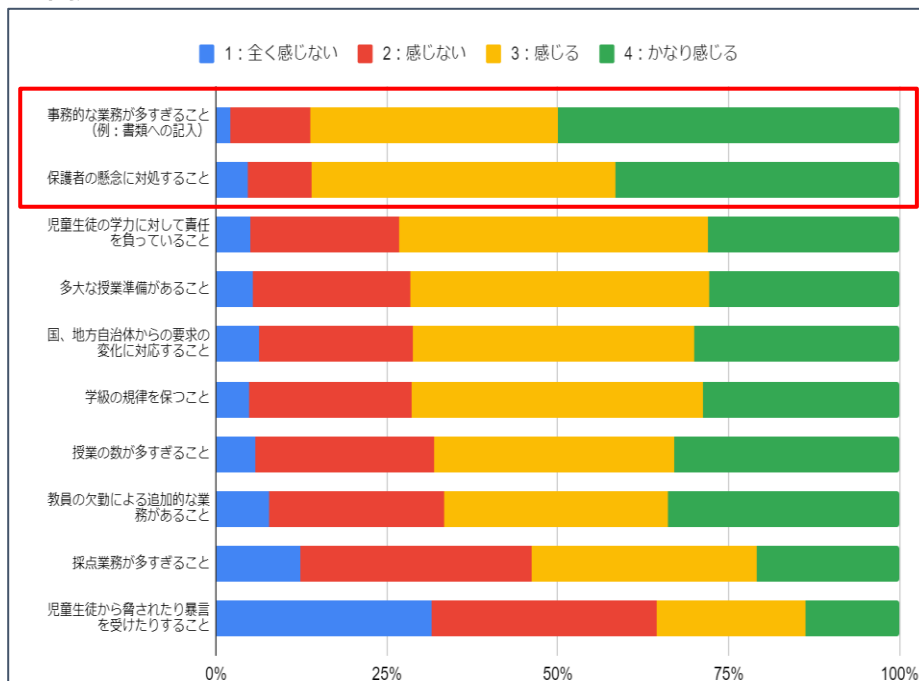
特徴：高等学校

- 教員は「個に応じた指導法」を研修で重要視
- 管理職は「教員間の連携の向上」や「探究や多様な学びの推進方法」の研修も重要視

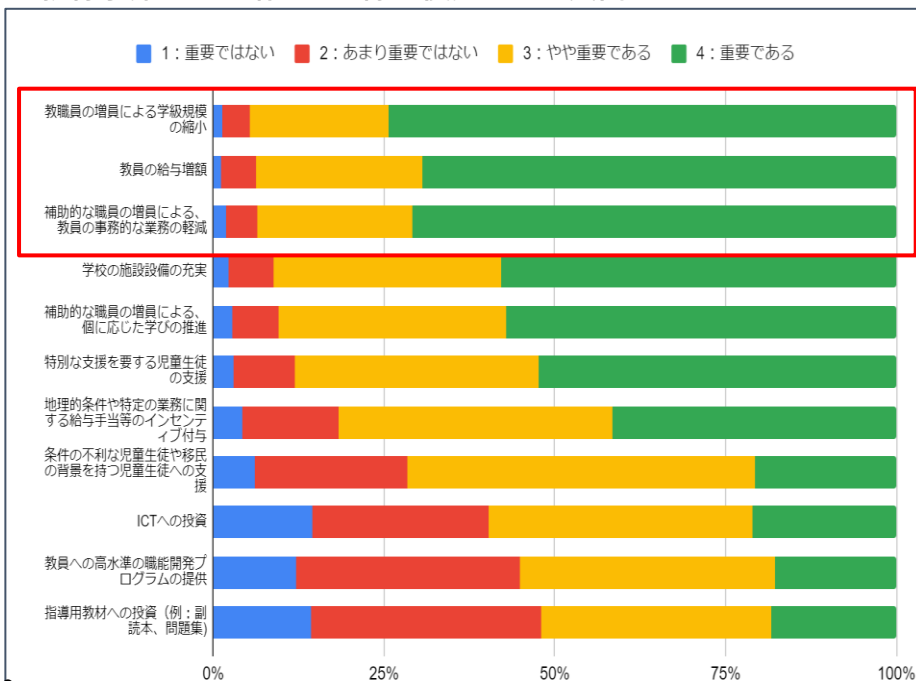
ポイント

- 教員が業務上ストレスを感じるのは、事務業務及び保護者対応
- 予算増額後に望む支援の上位3つは、「教職員の増員による学級規模の縮小」「教員の給与増額」「補助的な職員の増員による、教員の事務的な業務の軽減」
- 研修は特別な支援を要する児童生徒への指導や教科の知識・指導法に必要性を感じているが、参加に当たってはスケジュールを障壁に感じている
- 全体として仕事に満足しており、現在の学校の仕事での楽しさも感じているが、教職が社会的に評価されているとは感じておらず、給与・福利厚生・諸手当に満足していない

■業務上ストレスに感じる事



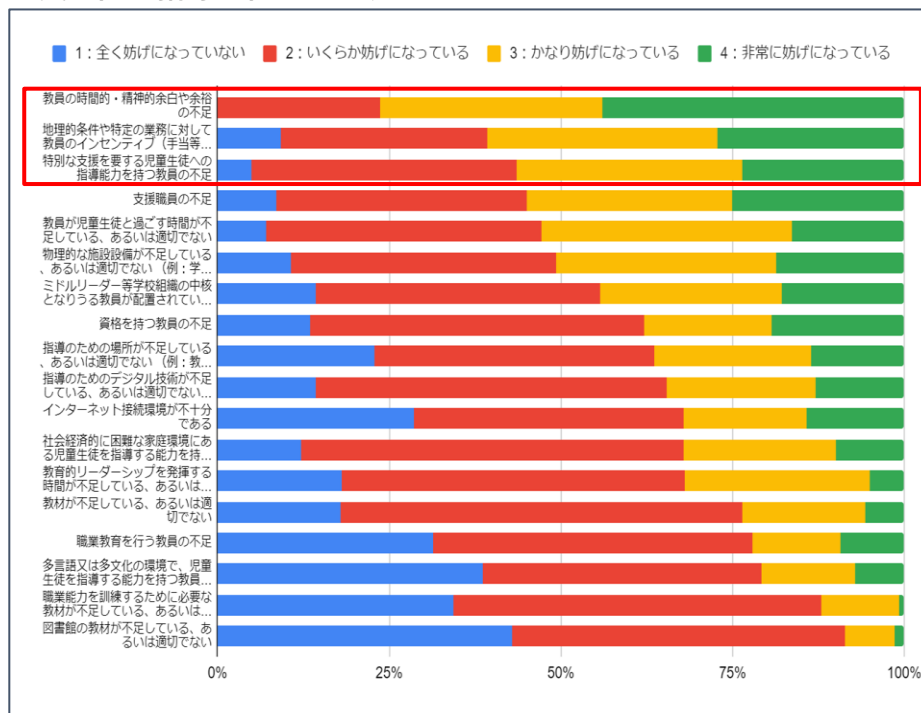
■教育予算が5%増加した際に優先すべき支出



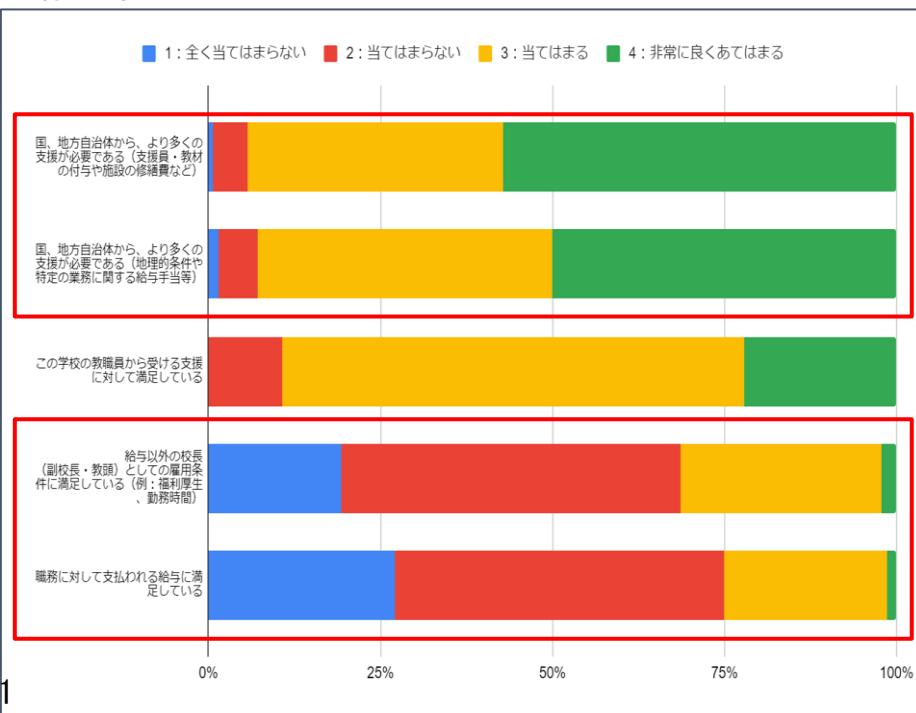
ポイント

- 質の高い指導の確立に向けて「教員の時間的・精神的余白や余裕の不足」「地理的条件や特定の業務への手当の不足」「特別な支援を要する児童生徒への指導能力を持つ教員の不足」を特に障壁としている
- 国や地方自治体から、支援員・教材の付与・施設の修繕費、地理的条件や特定の業務に関する給与手当等のより多くの支援を要望している。また、自身の給与や福利厚生等については満足してない
- 第4次教育振興基本計画の推進には「教員のウェルビーイング向上のための働き方改革」「福祉分野等との連携による困難や悩みを抱える子どもへの支援」「探究を核とした学びを推進するための教員自らが学ぶ研修の充実、教職員の資質向上」の3つを特に重視している

■ 質の高い指導を行う上で妨げになっていること



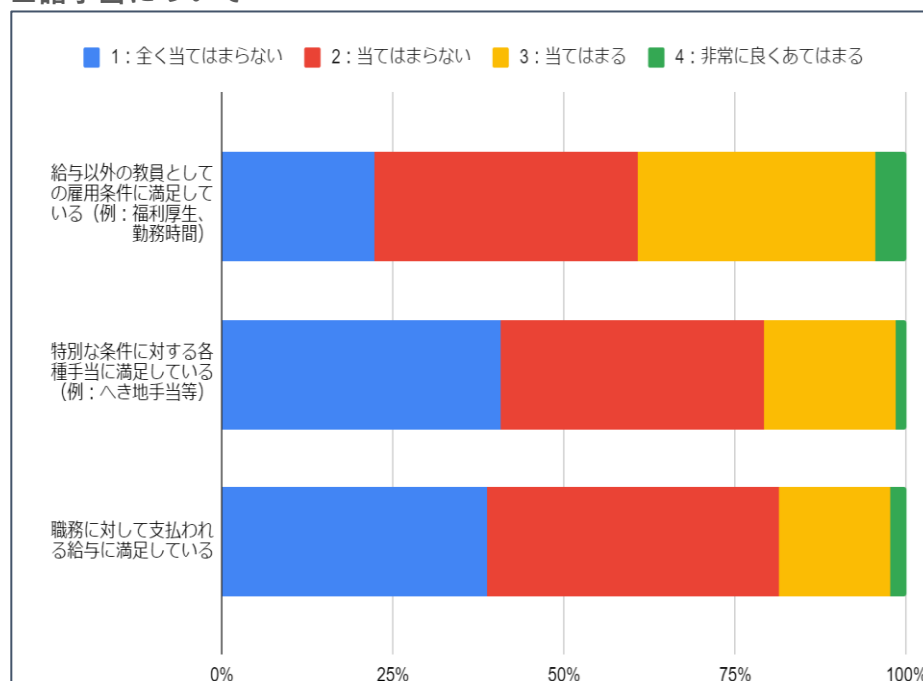
■ 諸手当について



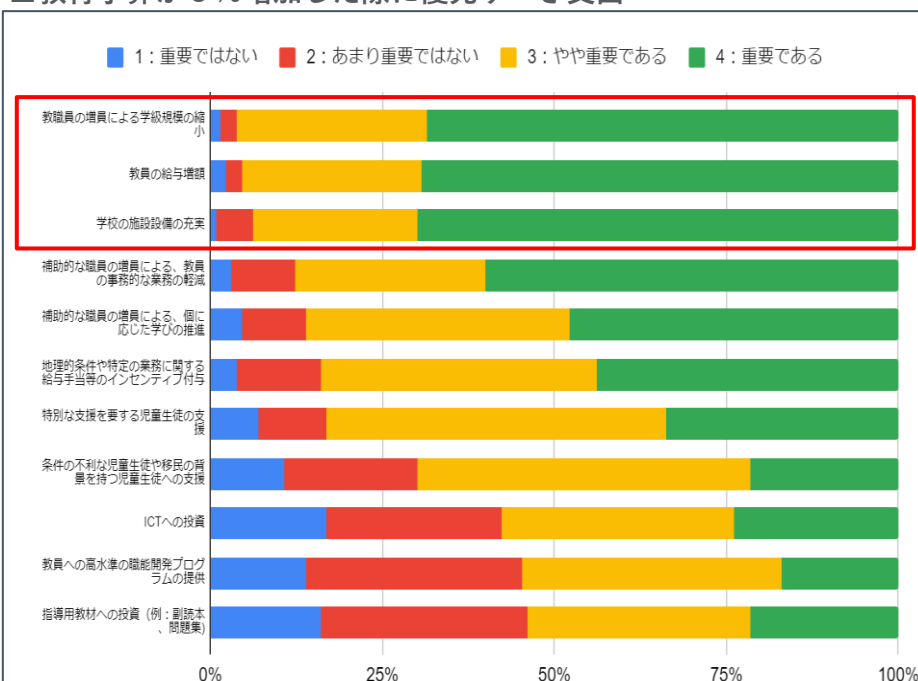
ポイント

- 全体として仕事に満足しており、現在の学校の仕事での楽しさも感じているが、教職が社会的に評価されているとは感じておらず、給与・福利厚生・諸手当に満足していない
- 予算増額後に望む支援の上位3つは、「教職員の増員による学級規模の縮小」「教員の給与増額」「学校施設設備の充実」
- 教員が業務上ストレスを感じるのは、事務業務及び保護者対応
- 研修は個に応じた指導法や教科の知識・指導法に必要性を感じているが、参加に当たってはスケジュールを障壁に感じている

■諸手当について



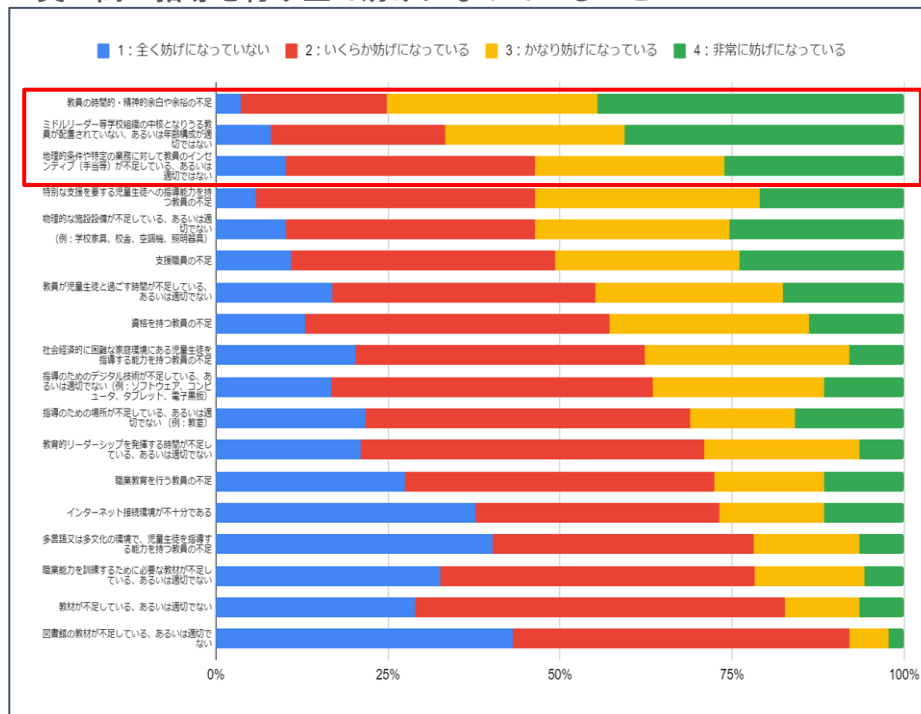
■教育予算が5%増加した際に優先すべき支出



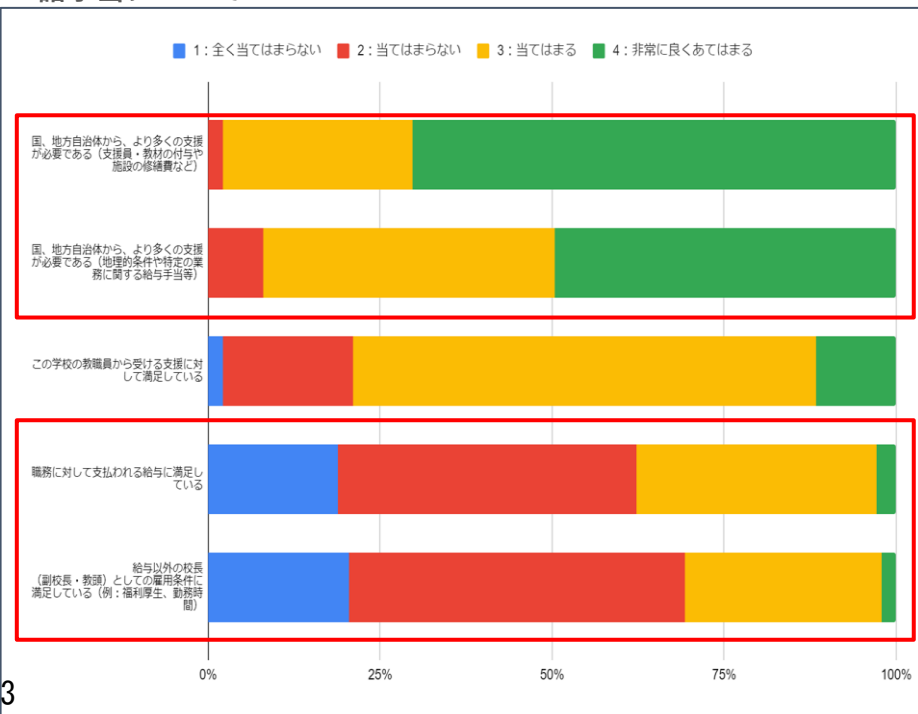
ポイント

- 質の高い指導の確立に向けて「教員の時間的・精神的余白や余裕の不足」「ミドルリーダー等組織の核となる教員の未配置、年齢構成」「地理的条件や特定の業務への手当の不足」を特に障壁としている
- 国や地方自治体から、支援員・教材の付与・施設の修繕費、地理的条件や特定の業務に関する給与手当等のより多くの支援を要望している。また、自身の給与や福利厚生等については満足してない
- 第4次教育振興基本計画の推進には「教員のウェルビーイング向上のための働き方改革」「これからの時代に向けた高校改革・学びの改革の推進」「福祉分野等との連携による困難や悩みを抱える子どもへの支援」の3つを特に重視している

■ 質の高い指導を行う上で妨げになっていること



■ 諸手当について



全体的な傾向

- 学校段階・教員・管理職に共通して全体で最も多かった意見が、個別最適な学びの推進や教職員の負担軽減に向けた「教職員数の確保及びクラスサイズの縮小」に関わる意見。定数にこだわらない教職員の増員や支援職員の配置、20名～25名程度の少人数学級の実現などの意見が見られた。
- 2番目に多かったのが教職員の余裕・余白の確保や資質向上・教職の魅力向上に向けた「教職員の働く環境及び処遇の改善」に関わる意見。また、それに続く形で3番目には多かったのが「学校の担うべき役割や業務の精選」に関わる意見。労働環境の改善では、長時間労働等による過大な負担の改善・軽減だけでなく空調設備の未整備や改修の要望、ICT端末のスペック・インターネット環境の強化などハード面の改善・充実の意見も見られた。処遇の改善については、給与の増額、残業代や各種諸手当の充実の意見が見られた。役割や業務の精選については教員が教材研究や授業づくりに専念できるよう、学校の担うべき役割を明確にし、外部と手を組みながら業務を絞る必要があるとする意見が見られた。
- そのほかにも、「個別最適な学びや多様な学び等の推進に向けた制度改革」に関わる意見や豊かな学習環境の確保を目指した「統合・再編を含む人口減少下の新たな学校の在り方の模索」に関わる意見など、これまでの学校教育を規定してきた制度等をそもそも見直すべきではないかとする意見も見られた。また、学校だけでなく多様な関係者・機関でこどもを支えることが重要だとする「地域や多様な関係者・関係機関を巻き込んだ学びの環境づくり」に関わる意見も見られている。

教職員・支援人材等の十分なリソース確保、教職員の労働環境・処遇の改善、諸制度や「学校・教育」の問い直し、関係者や関係機関を巻き込んだ学びの環境づくりといった意見が多く見られた。

主な分類

- 教職員数の確保・クラスサイズの縮小（個別最適な学びの推進と負担軽減等）：76件
- 教員の労働環境・処遇改善：49件
- 学校・教員が本来担うべき業務や役割の精選・効率化：28件
- 抜本的な制度・意識改革が必要（カリキュラムの見直し、そもそもの公教育の在り方の検討等）：23件
- アンケート等の調査が負担になっている：21件
- 教員の負担軽減施策（副担任や外部委託等のサポート施策、部活動の地域移行、労働時間の短縮等）：18件
- 個別最適な学びの推進：13件
- 多様な機関との連携推進：9件
- 教員の資質向上：9件
- 国・県による教育予算の拡充：8件

子どもの多様性に向き合い、個別最適な学びの環境を生み出すために、教員の余白・余裕を生み出すべきだという意見が目立った。 アンケート等調査の負担軽減や部活動の地域移行の推進、副担任や外部委託によるサポートの充実など、具体的に教員をサポートする意見が見られたほか、多様な機関との連携協働の推進、教職員の意識改革、ICT環境の整備、管理職への支援など学校現場の課題に取り組むうえで丁寧な支援が必要と思われる事項が多く並んだ。

主な分類

- 教職員・支援人材の十分な数の確保（労働環境改善・個別最適な学びの推進・教員の意欲向上）：26件
- 地域連携・協働の推進、地域に根差した学校づくり：16件
- 働き方改革・労働環境の整備推進：11件
- 個別最適な学びの実現に向けた環境整備（カリキュラムの見直し等）：8件
- 統廃合を含めた人口減少下での新たな学校のあり方の模索：7件
- 各学校の特色化推進・組織力の向上とそれに合わせた支援の実施：7件
- 教職員・関係者の意識改革：6件
- 教職員の質の担保に向けた処遇改善：6件

リソースを十分に確保することを大前提に、地域との協働、働き方改革を進め、学校をエンパワーメントしていくことを求める意見が目立った。そのうえで、探究や個別最適な学びに向けたカリキュラムの見直し、教科担任制やコミュニティスクールの推進、学校内フリースクール設置等を含み各学校の特色化・多様化を図ることにも触れられている。また、教職員・管理職の魅力化に向けた働き方改革や処遇改善、教職員の意識改革等の意見も見られた。

主な分類

- 教職員数の確保・クラスサイズの縮小（個別最適な学びの推進・教員の負担軽減）：28件
- 教員の労働環境・処遇の改善：26件
- 学校・教員が本来担うべき業務や役割の精選・効率化：17件
- 部活動の実施意義の問い直し・負担軽減：9件
- 教育への予算の拡充：8件
- 人口減少下の新たな教育・学校の在り方の模索：6件
- 個別最適な学び、探究の推進：5件
- 地域や多様な機関との連携推進：5件
- アンケート等の調査が負担になっている：4件

探究の推進や働き方改革に向けて教職員数の確保と少人数学級の推進が求められており、労働環境・処遇の改善では空調の不在や老朽化など施設設備の充実等の意見も目立った。また、様々な「〇〇教育」や事務業務の削減など学校・教員の担うべき業務・役割の精選、部活動の実施意義の問い直しと負担軽減など教員が子どもに向き合うための環境整備、人口減少下の新たな教育・学校の問い直し等そもそもの教育の役割の見直しにも触れられている。

主な分類

■教職員数の確保・クラスサイズの縮小（個別最適な学びの推進・教員の負担軽減等）：24件

■学校再編の推進：18件

■抜本的な制度・意識改革の推進

（個別最適な学び、主体的で対話的な学び、ICTの活用推進、教員の意識改革など）：15件

■学校・教員が本来担うべき業務や役割の精選・効率化：13件

■人口減少下の新たな教育・学校の在り方の模索：11件

■教育への予算拡充：10件

■教職員の労働環境・処遇改善：9件

■多様な機関・人材との連携による学校・学びの環境づくり：7件

個別最適な学び・協働的な学び・働き方改革を一体的に推進するためにも、教職員数の確保と少人数学級の実現を最優先としつつ、学校再編やカリキュラム等を含む抜本的な制度・意識改革といった、そもそもの高等学校教育の在り方や環境を再度見つめ直す意見が見られた。そのうえで、学校や教員が担うべきことの精選や、教育予算の拡充・教職員の労働環境・処遇改善などを学校のエンパワーメント、多様な機関・人材との連携した学びの環境づくり、一人ひとりの特性・背景に合わせた学びの在り方の検討といったことにも触れられている。

教 員

設問	項目	長野	全国※ ¹
仕事全般について以下のことはどの程度当てはまりますか （「当てはまる」及び「非常に良く当てはまる」の回答の合計）	全体としてみれば、この仕事に満足している	74.1%	83.5%
	現在の学校での仕事を楽しんでいる	72.9%	79.2%
	教職は社会的に高く評価されていると思う	23.1%	35.3%
以下のことはどの程度当てはまりますか （「当てはまる」及び「非常に良く当てはまる」の回答の合計）	職務に対して支払われる給与に満足している	24.7%	43.1%
	給与以外の教員としての雇用条件に満足している（例：福利厚生、勤務時間）	37.9%	42.8%
あなたの学校の業務に関して以下のことはどの程度ストレスに感じますか※ ²	事務的な業務が多すぎる（例：書類への記入）	84.9%※ ²	88.5%※ ²
	保護者の懸念に対応すること	83.0%※ ²	87.5%※ ²

管理職

設問	項目	長野	全国※ ¹
あなたが仕事全般についてどのように感じているかをお尋ねします。以下のことはどの程度当てはまりますか （「当てはまる」及び「非常に良く当てはまる」の回答の合計）	全体としてみれば、この仕事に満足している	84.1%	92.1%
	現在の学校での仕事を楽しんでいる	74.3%	87.4%
	教職は社会的に高く評価されていると思う	22.3%	45.1%
以下のことはどの程度当てはまりますか （「当てはまる」及び「非常に良く当てはまる」の回答の合計）	職務に対して支払われる給与に満足している	31.3%	32.7%
	給与以外の校長（副校長・教頭）としての雇用条件に満足している（例：福利厚生、勤務時間）	31.0%	46.2%
あなたの学校の業務に関して以下のことはどの程度ストレスに感じますか※ ²	事務的な業務が多すぎる（例：書類への記入）	84.8%※ ²	90.9%※ ²
	保護者の懸念に対応すること	84.2%※ ²	94.4%※ ²
	国、地方自治体からの要求の変化に対応すること	77.0%※ ²	92.3%※ ²

※¹ 全国平均はOECD, TALIS, 2018データベースより事務局にて作成

※² 「長野」の数値は「感じる」及び「かなり感じる」、「全国」の数値は「いくらか感じる」、「かなり感じる」及び「非常に良く感じる」と異なる指標に基づく回答の合計のため参考値

- OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2018は、2018年に実施され、公立、私立及び国立の小学校及び中学校を対象としたものである。
- 一方で、今回長野県で実施した調査は、公立の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校及び高等学校を対象としたものである。
- このように、時代背景や社会状況が異なることに加え、TALIS調査では取得していない学校種の教職員にも調査を行っていること、さらには長野県の実態に合わせて独自設問の追加や設問内容の修正を行っていることから、TALIS調査における全国平均数値との単純比較はできないため、あくまで参考資料としての取扱いとしている。